

CONTENTS	1~2	ニュース&レポート	母国での確かな実践につながる訪日研修を目指して
	3	ニュース&レポート	グローバル人材に求められる資質とは
	4	ニュース&レポート	意見交換を通じてお互いを理解
	5	協力企業特集	(株)サンクレスト/ (株)新高製作所/ 山田錦の館
	6	研修員の声/ PREXだより(2011年11月実施の主な研修)	

ニュース&レポート ①

母国での確かな実践につながる訪日研修を目指して



受入研修 地域振興

中米カリブ地域官民パートナーシップによる地域産業振興

本研修の目指すところは、貧困の削減を目的として、研修員が各国・地域の文化や資源を活かした新たな産業の創出に取り組むことです。2011年度の研修は6カ国から8名が参加しました。本研修は今年で5回目をむかえ、回を追うごとに帰国研修員の母国での活動に具体的な成果が多くできています。そのためには毎回さまざまな工夫や働きかけを行い、研修の成果が少しでも膨らんでいくようにプログラムを組み立てています。今回は初めて、過去の研修に参加した5カ国の帰国研修員をテレビ会議でつなぎ、彼らのアクションプランの実践状況を報告してもらい意見交換を行いました。この試みは今年度の研修員への大きな刺激とモチベーションにつながりました。

大きな世界地図を前に研修員がそれぞれ生立ち、職歴を説明しました。良いチーム作りのためのアイスブレイキングです。

アイスブレイキングと導入研修

この研修に限らず、研修員の多くは日本へ来て初めて顔をあわせます。全員が中米カリブ地域のスペイン語圏出身とはいえ、お互いのごちなさがあるては4週間もの間、本音のディスカッションやアクションプランの策定はできません。まず初日は良いチームを作り上げる一歩としてアイスブレイキングを行いました。大きな世界地図を机に広げ各人が生まれた町、育った町、家族と住む町を示しながら、生い立ちや職歴を説明し、日本まで来た飛行ルートも地図上で示しました。ある女性研修員は、母国から7回も飛行機を乗り換えて大阪に到着しましたが、彼女の荷物は、どこかの空の上でまだ届かず、男性研修員のだぶだぶの服を借りて研修に参加していました。夜は街まで繰り出し、コースリーダー

の先生も交えてウェルカムパーティーです。もともと根っから陽気な中米の研修員たち、緊張もほぐれて、あちこちで乾杯の声絶えませんでした。

研修の導入部は、コースリーダーである奈良県立大学の村田先生をむかえて、母国や各研修員が直面している課題や困難、こうしていきたいという将来ビジョンを共有し意見交換をしました。また講義では、地域振興の考え方や進め方について学んでいきました。

さまざまな地域振興事例を体感

この研修では、関西各地の地域振興の実践事例をさまざまな角度から学びます。“川端”という生活そのものを観光資源とした滋賀県高島町針江の事例、地域資源(黒壁)、地域文化(祭りなど)を活かした官民連携のまちづくりをおこなう滋賀県

長浜市の事例、点在する職人工房をネットワーク化し地域振興の拠点とした奈良県の工房街道の事例、いまや過疎地の地域振興の代名詞ともなった徳島県上勝町の“いろどり”など研修員の母国でもアイデアや方法次第で展開できそうなところを訪ねました。訪問後は各事例についてディスカッションを行い、事例から学んだことを整理し、自分たちに適用できる方法を考えます。

こうしたプロセスの中で、母国、地域の生かすべき強み、克服すべき弱みや、気付いていなかった文化や資源も整理され、自分たちのなすべきことや、進め方のイメージが膨らんでいくのです。

テレビ会議によるアクションプラン進捗ミーティング

今年度初めての取り組みとして、6カ国

間のテレビ会議を通じて、昨年までの帰国研修員が作成したアクションプランの進捗を共有し、先生の指導、研修員間のディスカッションを行いました。従来は、研修終了の半年後に進捗レポートを提出することで一連の研修終了と位置づけていたのですが、それだけでは過去の研修や実践の成果が翌年以降の研修員のアクションプランや動機付けにつながりにくいという反省がありました。そこで画面越しではあるもののリアルタイムで先輩研修員のプランの実践状況を共有し、意見交換することで、年度をまたがって研修のPDCAをまわしていく取り組みを行うことができました。この研修は過去4回の訪日研修に参加した帰国研修員が41名おり、そのうち18名が多忙を押し各国首都のJICAセンターに駆けつけてくれました。今回は4カ国についてアクションプランの詳細な進捗報告をしてもらいました。成功事例ばかりではありませんが、日本で学んだことが、母国で着実な成果につながっていることが、参加者全員に行動への強い動機付けとなったことは間違いありません。その中で、もっとも刺激

を受けたのは、日本で参加した今年の研修員8名でした。帰国後の自分たちのプラン実践のイメージが、研修への良いプレッシャーになった様子です。

アクションプランを携え帰国の途に

来日当初は曖昧模糊としていた自分たちのアクションプランが、講義やディスカッション、事例の分析、テレビ会議を通じて次第に具体的で実現可能なものに成長していきました。そして、修了式の前日には全員がその成果を発表し、母国での実践を約束しました。今年度の研修員はアク

ションプランの発表後、3つの誓いを披露してくれました。

1. 自国と中米・カリブの自然文化・歴史と人々を誇りに思う。
2. 日本で受けた研修を良い機会として活かす意志を持つ。
3. 仲間の能力を信じ、ともに地域・中米発展のための活動を行う。

研修員のチームワークと切磋琢磨、帰国後の研修成果の実践に心よりエールを送りたいと思います。

(国際交流部 浜口)



テレビ会議で6カ国30名がディスカッションを行いました。

研修概要

研修名	中米カリブ地域官民パートナーシップによる地域産業振興
実施期間	2011.8.25(木)～9.16(金)
委託元機関	独立行政法人国際協力機構(JICA) 大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体(敬称略、訪問順):
奈良県立大学村田武一郎教授、近畿経済産業局、針江生水の郷委員会、長浜まちづくり株式会社、あいとうエコプラザ菜の花館、日吉屋、味さっこう、兵庫県淡路県民局、いろどり、農園杉・五兵衛、天の川実行委員会野村代表、工房街道推進協議会

テレビ会議でのアクションプラン実践発表 ①

フィエロ・ドラードレストランプロジェクト (エルサルバドル)



ソフィア・マルガリータ・エルナンデスさん
エルサルバドル全国中小企業
零細企業会員 / 2010年研修員



ホルヘ・ラファエル・アングロさん
エルサルバドル商工会役員
2010年研修員

■ **発表の要旨**……アポハ市から車で15分ぐらいのところまで地域密着型のレストランを運営する計画です。日本で訪問した中尾農園や工房街道を参考にしました。そこではティラピア(淡水魚)の養殖池を併設し、お客様が釣った魚を厨房で調理し、住民たちにより地域で収穫された野菜、果物、豆類等の農産物や、ニワトリ等の家禽とともにレストランで提供します。また、地元で取れた農産物、地域の民芸品などを敷地内の露店で販売し、都会の人々が購入できるようにします。保証協会からの金融支援も得られ、ティラピア養殖のノウハウも蓄積され、今は地域住民の結束を固めつつある段階です。

■ **先生から**……釣体験に加えて、農産物の収穫体験も面白いのではないのでしょうか。日本で学んだ「おもてなしの心」も是非活かしてください。

テレビ会議でのアクションプラン実践発表 ②

協同組合の組織化と連携した地域産業振興 (ニカラグア / 農牧業協同組合 ラ・アスンシオン)



クララ・ニア・カセレスさん
技術サービスプログラム
管理者 / 2007年研修員



フランク・ノリ・ヒメネスさん
総支配人
2008年研修員



ノラン・ウマンソール・サルセドさん
技術調整官
2009年研修員

■ **発表の要旨**……農業協働組合を組織化し、地域住民と協働で、高品質で安全なとうもろこしやインゲン豆の種の生産者ネットワークを作り上げました。実施に当たっては変化することへの様々な抵抗にありましたが、上勝町の横石社長が20年間も周囲の説得にあたられたのですから、我々も同じように行いました。また、計画実践のためには我々研修員と組織である農業協同組合が同じビジョンを持つことも重要なことです。種以外にも地域にはミルクなどの資源も数多くあるので積極的な発掘をおこなっていきます。

■ **先生から**……産・官・学の連携を進め、加工場に政府認証を得るなど一層の付加価値化の取り組みもしてください。ブランド化することで、より高価格での販売が可能になります。

グローバル人材に求められる資質とは

留学生・日本人学生の支援事業

グローバル企業体感プログラム

立命館大学では留学生と留学経験・海外在住経験のある日本人を対象に、相互の学び合いを目指した1年間のプログラムを実施しています。今回PREXでは、そのプログラムの一部で、海外に進出するグローバル企業の理解を目的とした、「グローバル企業体感プログラム」を担当しています。このプログラムの前期分については、「PREX NOW」10月号で報告しました。後期分は、留学生を対象とした日本での研修と日本人学生を対象とした上海での研修に分かれており、本号では、上海での研修をご紹介します。



昆山吉貝機械有限公司での講義風景。

グローバル企業の現状を知る

今回のプログラムでは、立命館大学の学部3回生の日本人18名が、日系企業の中国・上海拠点を訪問しました。参加した学生は、海外での在住経験があり、世界を舞台にビジネスで活躍したいという将来像を描いています。本プログラムでは、日本企業のグローバル化の背景と現状を肌感覚で理解、認識してもらうことを目的に、計4社へ訪問させていただきました。

各訪問先では、経営幹部の方から上海でのマーケティング戦略や生産管理方法等についてお話いただくとともに、工場の現場を視察させていただきました。例え

ば、ダイキン工業では、マーケティング戦略を立てるうえで、「市場との対話」が非常に重要であり、その中でどのようなものが提案できるかを考えているとお話いただきました。中国では、赤色のエアコンや自分の写真をデザインしたエアコン等が好まれており、ショールームには日本とは異なるデザインや色の製品が並んでいました。また、工場の視察では、市場の動きが非常に速いために、製造ラインを短期間で変えなければいけないという話を伺いま

した。各訪問先では、学生が将来グローバル人材として活躍するためのアドバイスをいただきました。全ての訪問先で共通して

いたのは、「現地の文化を受け入れる柔軟さは必要であるが、日本人の美意識や繊細さは大事にして欲しい」ということでした。学生からは、「一見相反するような考えを、どのようにバランスを取って仕事をされているのですか」といった質問も出ました。留学経験を終えて、海外で再度生活することに漠然と理想を描いていた学生もいたようで、日本人として海外で働くことの意味を考えるきっかけとなったようです。

今回のプログラムを通じて、学生の多くが急成長を遂げる上海において日本企業が競争に勝つために知恵と汗を絞って日夜取り組んでおられる様子を実感することができたようで、プログラムが終わりに近づくとつれて、自分の将来について参加者同士で話す学生が増えたことが印象的でした。

(国際交流部 折井、北村)

TOPIC

利きビール

今回の研修では4つの企業を訪問させていただきましたが、その中の2つは、上海市から車で1時間位の、昆山という日本企業が数多く進出している工業地帯に立地しています。研修当日は、自転車の部品などを製造する昆山吉貝機械有限公司にお世話になった後、上海でのプログラム最後として、三得利ビール(昆山)の唯一の日本人として、孤軍奮闘されているとのことでした。



3種類のビールについて説明する講師。三得利ビール(昆山)の唯一の日本人として、孤軍奮闘されているとのことでした。

三得利ではお話を頂戴した後に、上海で販売されている3種類のビールを試飲させていただきました。もともと上海の方の嗜好に合わせ、味は日本のものと少し変えているのですが、それぞれターゲットが明確に設定されており、それに合わせた価格設定と、味の差別化がされていました。学生さん自身も、同じメーカーの3種類のビールを試飲する機会はまだあまり無かったようで、各商品の設定を確認しながら、ビールを楽しんでいました。上海のビールの方がおいしいという声もありました。

研修概要

研修名	グローバル企業体感プログラム
実施期間	上海 / 2011.9.13(火)~17(土) 本邦 / 2011.9.13(火)~15(木)
研修参加者	立命館大学「キャリア形成支援を通じたグローバル人材養成プログラム」を受講している学生。上海研修はその内の日本人学生を、本邦研修は留学生を対象に実施。
委託元機関	学校法人 立命館大学

お世話になった方々、企業・団体(敬称略、訪問順):
上海 / 蝶矢梅酒(上海)有限公司、大金空調(上海)有限公司、昆山吉貝機械有限公司、三得利ビール(昆山)有限公司
本邦 / 池田専門家、サントリーホールディングス、チョーヤ梅酒、大輝工業、ダイキン工業

意見交換を通じてお互いを理解



訪日研修 経営管理

ベトナム日本センター

「経営者育成のための経営塾研修」訪日研修プログラム

本研修は、ベトナム日本センターで実施されている「経営者育成のための経営塾研修」参加者が、日本での研修を通じ、現地で学んだ、経営者としての洞察力・戦略的思考力・判断力をさらに高め、今後のベトナム産業界を担う人材を育成することを目的に実施された研修です。今回PREXは、JICAから委託を受けた、パナソニックエクセルインターナショナル(以下PEICO)実施の訪日研修プログラムを支援するという形で運営に関わりました。

エバオン前西代表取締役社長(左手前)のお話聞き入る研修員。

意見交換会を実施

研修員は、企業幹部が中心で、規模は大企業から中堅企業まで様々でしたが、年300%の勢いで販売を伸ばしている企業が含まれているなど、研修員の話から、ベトナムが現在成長の真只中にあり、可能性に満ち溢れていることが伝わってきました。

そんなベトナムの方々、日本企業の経営者との交流を目的に、今回、大阪府中小企業家同友会のご協力のもと、意見交換会を実施することができました。当日は、エバオン、阪和化工機、仙台テック、関西同友会事業協同組合、大阪府中小企業家同友会の企業・団体各1名ずつに参加いただきました。2グループに分かれ、1時間ほど意見交換のための時間を持ちましたが、会話は途切れることなく、活発な意

見交換が続きました。研修員からは、日本の経済や現状、企業経営、人材育成などに関することから、文化に至るまで、様々な質問が出されました。さらに、日本側の参加者からも、日本企業から見たベトナムの魅力が語られ、時には逆質問されるなど、お互いについて理解を深める良い機会となったようです。

意見交換会は終始和やかなムードで進行し、終了する頃には皆打ち解け、「ベトナムにお越しの際は是非連絡下さい。一緒にご飯を食べに(≒お酒を飲みに行きましょう)」という会話が交わされていました。実際、研修員の一人は帰国後、日本側の参加者の一人に、自らのビジネスに関わる相談(材料の調達に関わる内容とのことです)をするといったことがあったようです。この交流がきっかけとなり、数年後には日越の大きなビジネスに発展するとともに、

日越の経営者同士の友情が育まれていることを願ってやみません。

(国際交流部 折井)

研修概要

研修名	ベトナム日本センター「経営者育成のための経営塾研修」訪日研修プログラム
実施期間	2011.8.1(月)～12(金)
研修参加者	20名(ベトナム日本センター「経営塾」の受講者18名、日本センター職員2名)
委託元機関	パナソニック・エクセル・インターナショナル

お世話になった方々、企業・団体(敬称略、訪問順): 白鶴酒造、ナベル、早稲田大学 トラン・ヴァン・トゥ教授、武田薬品工業、クリエイション 内海代表取締役、中農製作所、新高製作所、松下幸之助歴史館、パナソニックセンター大阪、エバオン、大阪府中小企業家同友会、阪和化工機、仙台テック、関西同友会事業協同組合、ワコール、レンゴ

TOPIC

「女性共感」企業・世界のワコール

ワコールは日本を代表する下着の製造・販売メーカーであり、日本国内はもとより、アジアを中心に早い段階から積極的に海外へ展開しています。ベトナム工場は1998年に設立され、今ではワコール最大の生産拠点となっています。数々のヒット商品を生み出すワコールのコアコンピタンスは数万人のデータを蓄積する人間科学研究所。「女性共感」企業・世界のワコールを目指すワコールの歴史は、いかに女性の体型を美しく見せるかを考え続けた歴史であり、今後もR&Dがコアとなりヒット商品を打ち出していくものと期待されます。

ワコールでは海外展開をテーマに講義をしていただきましたが、ショールームでは若者から年配者用までのブラジャーが壁一面に展示されており、男性研修員が目のやり場に困るシーンも見受けられました。

(国際交流部 竹澤)



アメリカ・ヨーロッパ・中国で特に人気の高いブラジャーの展示コーナーでは女性研修員が特に興味を示していました。

協力企業特集

PREXでは、年間30件前後の研修を国内で実施し、大変多くの訪問先にご協力いただいています。その中から毎号、特色ある企業などをご紹介します。

322件

うち新規 62件

ゲーム機、パソコンのフィルター企画・販売

(株)サンクレスト

本社=大阪府東大阪市
HP=<http://www.suncrest.co.jp/>

「立命館大学グローバル企業体感プログラム」で訪問

同社は、1986年の創業以来、「子供の目を守る」をテーマに、ゲーム機フィルター・パソコンフィルターなどを「サンフィルター」シリーズとして数多くの商品を企画・販売されてきました。近年では、既に飽和状態と言われていた携帯電話の分野で、のぞき見を防止する「メールブロック」やラインストーンの装飾を施した「ジュエリーシール」で新しい市場を創り出すことに成功され、現在では業界シェアの約7割を同社製品が占めているとのこと。ヨーロッパ、アメリカへの進出も視野に入れておられ、植田社長から学生達に対してグローバルな視点が今後ビジネスで活躍するうえでいかに重要かということをお話いただきました。植田社長の熱いエールと温かいおもてなしに、終始興奮、感動しきりの学生達でした。



植田社長お決まりの月を喰らうポーズで写真撮影しました。

建築装飾金物の設計・製作・施工

(株)新高製作所

本社=大阪府大阪市東成区
HP=<http://www.niitaka-ss.jp/>

「ベトナム日本センター 経営者育成のための研修」で訪問

同社は1931年に創業、今年で80周年を迎えます。螺旋階段、手すり、フェンス、サッシ等の建築装飾金物を設計から製作・施工までオーダーメイドで対応されています。中国江蘇省にも工場展開し、本社でも中国人従業員を採用し、社内のグローバル化にも注力されています。今回は同社の会社紹介に加え、会長の経営観や日本の中小企業が抱えている数多くの課題について率直にお話いただきました。「夢とロマンを常に語り合える会社」そんな会社であってほしいとの締めのお言葉に、研修員も共感していました。吉谷会長からは「研修員の礼儀正しさや真面目な態度には好印象を受けた。特に目の輝きが素晴らしく、良いことを吸収しようとする熱意と向上心が伝わってきた」との嬉しいお言葉をいただきました。



自身の経営観や日本の中小企業の課題を熱く語られる吉谷会長。

地域特産品と酒米ミュージアム

山田錦の館

本社=兵庫県三木市
HP=<http://www.76-2401.com/>

「ラオス日本センタービジネス人材育成プロジェクト MBA講師・修了生研修」で訪問

山田錦の館は平成16年にオープン。「農業を中心とする地域特性を活かしたまちの文化と活力を創るまちづくり」を基本理念に掲げ、三木市吉川町の情報を発信することで酒米「山田錦」のさらなる生産振興と農業全般の活性化を目指しています。敷地内にはミュージアム、直売所の他、温泉施設「よかたん」などが併設されています。

訪問の当日は藤本支配人から吉川地域の農業の現状と課題、特産品の振興に向けた取り組みについてのお話を伺った後、山田錦ミュージアム、地域特産品販売所、農産物直売所、食品加工所を見学させていただきました。研修員からは「米作りということで親近感を持ちました。ラオスの将来像を考える上で大変参考になりました」との声が出ました。



自然に囲まれたゆったりした雰囲気の中で見学させていただきました。農産物直売所にて藤本支配人と。

研修員の声

本号1～2ページで紹介した「中米カリブ地域官民パートナーシップによる地域産業振興」は今年で5回目となりました。中米カリブ地域では、地域の文化・資源を活かした新たな産業の創出が課題となっているため、日本の事例を学ぶ本研修は、現地から高いニーズを得ています。PREXでは、徳島のいごどり、長浜のまちづくり、針江生水の郷、奈良の工房街道など様々な地域を訪問するプログラムを企画しています。これまでの帰国研修員からは日本での事例を参考にした具体的な成果が多く出てきています。今回の研修に参加したエルサルバドル経済相マリオさんの開講式のスピーチを紹介します。



*「研修員の声」はPREXホームページでも紹介しています。研修員が感じた日本・関西についての情報をご覧ください。



バケラノ クルス・ホセ マリオさん

エルサルバドル 経済省 全国中小零細企業委員会(コナミペ) 地域経済開発 技官

日本は日出ずる国として、世界的に知られています。この美しい国が扉を開き、3000年を超える歴史に蓄積された叡智を与えてくれました。私たちは地域資源を活用すれば、経済開発が可能となるということを身をもって学ぶことができました。

日本は、産官学が連携し民間事業に活力を与え、地域住民の生活の質の向上を図ってきた国です。人々は、それぞれの立場で環境を大切に、伝統を守りつつ、グローバル化による変化に対応しています。研修で訪問したひとつひとつの地域でこの日本の姿を感じ、感激しました。日本の人々の温かさ、おもてなしの心、親しみのこもった挨拶にも驚きました。地域の人々からは、住んでいる場所に対する愛情を強く感じました。地域には産業を創出する力があり、住民一人ひとり、性別・年齢・社会環境に関係なく、そして特定の地域に限らず、日本全国をも動かす力を持つことを学びました。

9月16日、本研修は、大成功のうちに終幕を迎えました。これからは、私たちが研修で学んだことを自国で実行していきます。私たちには、変革者としての責務があります。この素晴らしい経験をより多くの人々に伝えたいです。日本の素晴らしさは、私たちの国々多くの人生に影響を与えてくれると思います。

グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ、ドミニカ共和国、そしてエルサルバドルという中米カリブ地域の国民を代表して、心からの御礼と賞賛を申し上げます。この美しい国、日本の素晴らしさを最高に楽しませていただきました。

日本は、私たちの頭の中に、そして心の中にあります。自国で産業振興を成功させたいという想いの中に、日本はあります。

私たちは「新しい物の見方」を身につけ旅立ちます。仲間の研修員と諸先生方との強い友愛の絆を携えて、日本を後にします。新しい家族とともに、帰国の途に着きます。

ありがとう、JICA。ありがとう、PREX。そして、ありがとう、ニッポン。

PREXだより

9月26日から「立命館大学政策科学研究科特別講座」を実施

PREXでは、立命館大学の修士課程と博士課程で学ぶ在日留学生および日本人学生を対象とした支援事業を実施しています。

9月26日から開講された本講座は、主として在日留学生を対象とする英語による大学院講義インターンシップ課目(大学内の講義に加えて大学外でも学ぶ特別講座)です。9月26日から来年1月15日まで、毎週月曜日の午後合計15回開講され、15回のうち7回開催される実習活動についてPREXが支援します。昨年度に引き続き2年目の実施となります。

学生は、政策科学研究科で学ぶ大学院生9名(在日留学生7名、日本人学生2名)です。民間企業の幹部、ODA実施機関、中小企業等の支援機関のメンバーとの交流を通して、大学内では経験できない日本の現場での経験を得る機会を得ます。詳細はホームページをご覧ください。



2010年度の「立命館大学政策科学研究科特別講座」でナバルを訪問する学生。

2011年11月実施の主な研修

受入研修 環境

JICA省エネに関する企業と行政の取り組み

実施期間 2011.11.10(木)～12.2(金)

研修参加者 インドネシア、カザフスタン、スリランカ、中国、フィリピンの中
央省庁、地方自治体、公的支援機関などで省エネに携わる
行政官10名

受入研修 中小企業振興

JICA中小企業振興のための金融・技術支援(B)

実施期間 2011.11.14(月)～12.9(金)

研修参加者 アフガニスタン、アルバニア、エチオピア、エルサルバドル、カ
ンボジア、グルジア、ケニア、中国、パプアニューギニア、ボス
ニア・ヘルツェゴヴィナ、南アフリカ、メキシコ、モルディブ、ラオ
スの中央省庁、地方自治体、公的支援機関などで中小企業
振興に携わる行政官18名

受入研修 環境

JICA草の根地域提案型事業「西安市における水環境改善」

実施期間 2011.11.22(火)～12.3(土)

研修参加者 西安市の水環境改善技術者5名